

第68回 研修会報告

林 伴子 (研修部)

日時：1993年7月2日(水) 10:00~16:15

場所：西宮市立中央病院 3階講義室

会費：会員1000円 非会員1500円

参加者：会員30名 非会員11名

プログラム：別紙のとおり

今年度1回目研修会は相互貸借を中心に取り上げた。4月からのMRの文献サービス自粛に伴い、会員各施設とも対応に苦慮しているためか、多数の参加を得た。また、非会員の参加も最近になく多かった。

午前中のプログラムはまず近畿地区医学図書館協会へのアンケート報告から始められた。

アンケートの内容は 1)近畿病院図書室協議会員からの FAXによる文献申込を受け付けるかどうかについて、2)受け付ける場合の申込様式について、3)病院図書室への要望の3点である。対象は近畿地区医学図書館16館で、回答は14館から寄せられた。その中で受け付けられないとの回答は1館のみで各図書館とも FAXでの申込に好意的な姿勢であった。

様式については専用様式での申込のみ受け付けるとの回答も3館からあったが、おおむね必要な書誌事項の記載があれば受け付けるとの事である。

病院図書室への要望としては、宛名ラベルについてのものが多かった。以上まとめたものを当日の資料として配付した。

会員内での相互貸借業務についてのアンケート報告では、4月からの利用者の申込が増えた施設が多く、現在実施していない施設でも文献入手の要望が多くなっている。申込の方法としては、申込、受付とも往復ハガキによる方法を望んでいる所が多かった。しかし、FAXによる申込、受付を希望する所も3割ちかくあり、また、図書室内設置も増えているので、徐々に FAXによる申込が普及してゆくように思う。

MRの自粛による影響については国立京都病院小田中氏より経過が報告された後、同氏の司会に

より、フリートーキング形式によるディスカッションが行われた。今回は前述したように、会員外からの参加も多く、特に近畿地区外からの参加が目立ったが、病院図書室の連携が行われていない状況では文献提供が難しくなってきた事も報告された。

会員外参加者の中には、図書室業務には今まで携わっていない人も何名かいて、医師からの文献入手の要望にこたえるため、取りあえず研修会に参加した様子がかうかがえた。

会員の中でも今まで相互貸借業務を殆ど行っていない所もあって、4月からの対応に苦慮しているとの報告が多かった。しかし、現状としてはMRによる文献提供が復活する見通しはなく、会員間での相互協力の重要性を再認識した。

午後は丸善によるMACS2による外国雑誌一括納入システムの概略説明とデモが行われた。以前の研修会で取り上げた、紀伊國屋のアクセスサービスと類似のシステムである。一括納入のため開封、記帳などの業務が軽減し、照合も簡単になるようである。しかし、取り扱いタイトル数、価格の点で病院図書室での導入が計れるかどうか、各図書室の判断によるところであろう。

最後のプログラムでは院内感染の1番の問題となっているMRSAについて、スライドを見ながらの講義を受けた。MRSAがどうして発生したのかなど、分かりやすく聞くことができた。現在MRSA対策に関心を持つ施設が多いことと思うが、図書室担当者が多少の知識を持つことによって利用者サービスへつながればと考える。

プログラム

1 相互貸借業務について

1)近畿地区医学図書館へのファックス申込方法
とアンケート報告 研修部

2)MRの文献提供の自粛による影響と病院図書室 小田中徹也

3)質疑応答

2 丸善MACS2 外国雑誌一括発注システムについて 古田 健一

(丸善外国雑誌センター営業促進課)

3 「医学の基礎知識」MRSAについて

西尾 晃 (社会保険神戸中央病院)